

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600416		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森北白川		
所在地	京都市左京区浄土寺石橋町69番地		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600416-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」 1階		
訪問調査日	平成31年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に哲学の道があり、少し行けば、寺院がたくさんあります。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、散歩しながらでも、四季を贅沢に味わえる場所となっており、皆様外に散歩に行かれる事を毎日楽しみにさせています。 現在、力を入れて取り組んでいる事は、ご利用者の生活習慣の尊重や馴染みの場所や物に触れる機会をなるべく多く提供できるようにすることです。 ご利用者の健康面を考え個別にリハビリを行い。施設のハード面を活かし生活リハビリを取り入れて健康で楽しく生活できる環境の提供をする事です。 ご利用者・ご家族様との信頼関係を築き、ターミナルケアを支えあえるチームで支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

観光客が行きかう「哲学の道」に沿って「ニングルの森 北白川」がある。平成14年11月にヤマト株式会社が1ユニットのグループホームを開設された。川の流れに沿って四季を彩る樹々が並び、恰好の散歩道になっている。散歩の途中で、近隣の住民や外国の観光客から声をかけて貰って嬉しい経験をしている。外の喧騒に比べて館内は落ち着いた静けさがある。職員が、一人ひとりに寄り添い優しく接している姿を見る事ができた。元社員寮であった事から階段や段差があるが、階段をリハビリテーションの場に替えて有効利用している。その結果、下肢筋力の回復に繋がっている。道路に面した壁面を掲示板代わりになるように工夫して、事業所の案内や入居者募集のポスターなどを貼って地域住民に親しみを持たせている。また、地下室にあった浴場を1階に新たに設置して、入居者に喜ばれている。管理者は、会社の協力の下、色々と工夫して「住みやすい家」「働きやすい職場」を目指している。地域・家族とも友好関係を築き、入居者を温かく見守る体制作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然・地域と統合した人間としての幸せな生活。を理念とし、実現化に向けて日々積み重ねている。理念の掲示(日誌・額への掲示)話し合いを行っている。カンファレンスの前に「理念」を踏まえた話等を導入し、会議等にも理念についての話を行っている。それに加え、事業所の職員と話し合い、事業所行動指針を作成し掲示している。	法人の理念には、基本理念と認知症介護理念を掲げている。さらに、事業所においても、理念と目標を示し、行動指針も明確に文章化している。法人の理念や事業所の「思い」などは、ホームページやパンフレットなどで紹介している。パンフレットの表紙には、利用者と職員がしっかりと手をつないでいる写真があり、法人の支援に対する温かい思いが伝わってくる。管理者と職員が理念に沿った支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の隣人との挨拶・お散歩されている方への声かけを行うよう努めている。 前年度には、町内会組長として、行事のお手伝い・参加をさせていただいている。 施設の行事には地域のお店で外食やお食事を取らせていただいている。 季節の行事には、ボランティア様も参加していただいている。 掲示板を作成して地域の方にイベントの参加・ボランティア様の募集をおこない、折り紙教室等のイベントに地域の方参加していただいている。 地域ケア会議への参加。 第三錦林小学校の認知症サポーター養成講習に参加する。	町内会には、地域の一員として入会し3年に1度の町内会組長の役を担っている。近隣の住民も高齢の方が増えているので、管理者がイベントなどで何かと手伝って交流を図っている。また、地域や家族等がボランティアとして来所して貰っており、双方向での協力関係が出来てきている。哲学の道沿いの壁面に掲示板を設け、「入居者募集」や「イベントのお誘い」などのポスターを貼って地域住民に親しみを持って貰えるように工夫している。哲学の道が日常の散歩道になっており、近在の人と挨拶を交わしている。地域ケア会議に出席して、地域の情報の交換を行ったり、小学校に出向き「認知症サポーター養成講習」に参加して地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて話す機会を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本会議・ミーティング等において、イベント時の相談を行ない家族様の意見を反映している。 参加者の方に分かりやすくするために、写真、動画などで報告している。	会議には、地域包括支援事業所職員・地域ボランティア・家族(2名)が出席している。事業所からは、管理者と職員が出席して、理解しやすいように写真や動画を活用して、事業所の状況等を報告している。事故・ヒヤリハットについても詳しく報告している。事業所運営に関するアンケートの結果報告も行っている。諸報告の後、意見交換を行っている。非常に活発な意見が出されて有意義な会議になっている。行事に関する事案などで家族の意見を聞き取っているのも協力を得る上で大切な事と思われる。ボランティアや家族などと友好関係が出来ていることが議事録から読み取る事ができた。	会議の出席者が少ないにも関わらず、多くの意見が出されていて有意義な会議になっていると思います。しかし、その中から大切な課題を明確にされていません。些細な事例でも、今後の運営に係る事もあるかと思われるので、課題になるような事案を「課題」として明確に抽出される事を提案致します。課題＝検討＝改善＝結果の流れで、次回の会議で報告されると、信頼関係がより深まるのではないのでしょうか？	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の申請の際への窓口訪問。地域の方々は勿論の事、消防・警察・役所等への理解と協力を更に深めていきたい。	行政の担当課とは、いつでも相談しアドバイスが得られる関係を築いている。認知症の方の事業所であり、有事の場合の協力依頼を円滑にするためにも、消防署や警察署などとも関係を深めたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。社内研修については、毎年継続的に実施している。	「身体拘束をしないケアの実践」に努めている。マニュアルを作成し、職員には定期的に研修を行って周知を図っている。定期的に開催する会議でも意見交換を行っている。声掛けや言葉遣いにも配慮している。1階と2階に居室が分かれているため、安全確保を目的として、必要に応じてセンサーを設置している。また、階段にカメラを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。 今年度より年2回の研修を行う。 法人内にて虐待防止委員会を設置して、各事業所とも意見交換・マニュアルの見直し等行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのセミナー参加を検討。また、現在成年後見人制度対象者について入所時等に勧めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えるよう、また、質問等を行える時間を設けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 「ご意見・ご要望用紙」の説明と意見箱の設置を、運営推進会議にて説明する。 運営推進会議にて、アンケートを実施する。 課題については運営推進会議にて報告する。	入居者からの要望などは、日常生活の中で聞き取っている。家族等からは、来所時の会話の中から聞き取ったり、運営推進会議でも意見を貰っている。さらに、アンケートを実施して意見を収集している。内容は、事業所で検討し、運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、受け付けており、また会議・ミーティング・職員間の報告ノートにて、よりよいサービスへの意見や提案を具現化する機会を作るよう努めている。 職員面談の実施(年2回実施)	日常的に、申し送り時や業務の中で気づいた事を話し合っている。ミーティングや会議などでも情報・意見交換を行っている。事案に応じて検討し改善策を講じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、各職員の評価や努力、勤務状況や業務内容を運営者に管理者が報告を行い、把握に努めている。 評価する機会を設け、各職員に向上心を持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は研修計画に沿って、基本的なことを教えている。定期的に、認知症ケア、パーソンセンタードケア等の専門的な内容から、虐待防止や感染防止等についての基本的なことも研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設(グループホーム)との見学・意見交換の受け入れ、また他同業者(他サービス事業者)の見学を受け入れている。 同業施設職員様による音楽演奏会も行う。 法人にて同業者職員・地域包括の方をお招きして事例検討発表会を開催し勉強会を行う。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を取り入れ、利用者・家族からの聴取に努めている。ただし、入居時の質問事項の細分化は行っており、ニーズを収集する時間(見学と、利用前の利用者宅及び入所施設の訪問)を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、グループホームとはどんなサービスなのかという説明と家族が抱える問題点や不安感を聴く時間と答える時間をもうけている。入所に対する不安は、ケースによりグループホームでどのような介護が行えるか例をあげたりすることで、利用が難しいと考える家族に対しても、グループホームの可能性について話すよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのケースによるが、状況次第では、他のサービスについての説明を行うこと、利用者の現在必要としているサービスは何なのかというサービスの抽出への助言について話し合いを行う時間をもうけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の方が一緒に生活できる機会を作るように努めている。買い物と一緒に行って、調理を共に行い、ご自分で好きな量を配膳して頂き、食器を洗い、片付ける。と食事というキーワードだけでもこれだけの事があり、出来る事はやって頂き、職員が「ありがとう」と言う関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントについては複数の家族が参加できるような促しや、イベントでもなるべくご家族とご利用の方が一緒に出来るような事を取り入れ、共に喜んで頂ける機会の提供。一人のご利用者の方に対して、複数のご家族が参加しやすい環境を提供する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にも、施設の行事案内や近況報告をお送りしている。 馴染みについては、我々としても大切にしたいと考えている。場所等については、希望があれば、お連れしたり、ご家族にお願いするようにしている。実際に馴染みの方と関係を継続されている方もおられますので、その関係を大切にしていきたいと思います。	入居者の馴染みの方とは、事業所としても関係を維持できるように配慮している。近在には、馴染みの名所・旧跡があり、散歩がてらに出かけている。また、近在の住民やボランティアの方達とも新しい馴染みの関係が出来ており、思い出も増えている。職員や入居者同士も一緒に生活している中で親しい関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しい方については、職員が関わるようにしている。洗濯物を皆で協力してたたんだり、外周りの掃除も同じように協力して実施できる環境を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時及び退所後の支援・相談の対応を行うよう努めている。 お手紙を送ったりする事により、つきあいを大切にするように努めている。利用者退所後の家族の電話・来園時の協力についての説明。 また、利用者外でも相談者(元見学者等)への相談は随時行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の言葉(希望・不満等)を汲み取れるよう努めている。その内容をケアプランに反映したり、ご家族構成や生活習慣を記録としている。	初回面談で、本人や家族等から生活歴や心身状況・楽しみ事・今後の生活に対する希望等聞き取り記録している。必要に応じて、医療関係者からも情報提供を受けている。入居後は、日常生活の様子を把握して介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れることで把握に努めている。 また、毎月モニタリングを実施しており、日常の変化を検討し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族のご希望や意向を踏まえてケアプランを作成し、基本的には毎月カンファレンスを実施している。また、日々の生活の中でご本人やご家族の意向を反映している。基本的に、チームで話し合いケアプランを作成しており、今後も継続して実施していきたい	日々の様子の記録から、毎月カンファレンスを行いモニタリングを行っている。家族等や医療関係者からも情報を得て、支援の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。心身の状況に変化があれば、速やかに話し合いを持ち、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中にも、センター方式の内容を反映させ、ご利用者の方の言葉、表情等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の習慣に合わせて、毎朝地蔵参りにお連れしたり、喫茶店に行かれている習慣の方については、個別にお連れしている。お花の会には、実際に利用者様にお好きな花を買いに一緒に行き、地域の方との交流が出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源マップの作成。近くのスーパー、薬局、喫茶店、本屋、和菓子屋等、ご本人の趣味、嗜好に合わせて、利用している。ご本人の趣味や習慣を伺い、必要に応じボランティア様に来て頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の自由は尊重し、今までのかかりつけ医を大切にいただいている。また現在、当施設の主治医についてもご理解いただけるよう、間に入り説明及び協力を努めている。	かかりつけ医の選択は、本人や家族の希望を尊重している。事業所の協力医は、定期的な往診で健康管理を担っている。職員は、日常の様子を医師に伝え、医師から指示を受けて円滑な健康管理に反映させている。非常勤ではあるが、看護師の資格を持つ職員もおり適切なアドバイスも得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設看護職及び主治医との話し合いを密に行うよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に関しての受け入れ体制、の報告・情報交換。家族への対応についての相談援助に努めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて看取りについての指針・体制を作成している。 終末期には、家族様・チームで支援に取り組んでいる。	「医療連携における訪問診療に関する約定書」と共に看取りに関する指針として「グループホーム・ニングルの森 北白川における看取り介護実施の定義」として細かく看取りの体制を定め、入居者と家族等から同意の署名・捺印を得ている。その上で、医療関係者や家族等の協力を得て支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、またマニュアルにより事故防止策を講じている。連絡網（緊急連絡先）の準備と対策マニュアルの作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練（避難誘導・初期消火訓練）を利用者参加のもと、年2回以上実施している。運営推進会議等でも避難訓練をすることを地域の方にも伝えるようにしている。事業所間の協力体制の強化の為災害対策委員会の設置をしている。	定期的に、避難訓練と初期消火訓練を「防災訓練」として実施している。1度は消防署の指導を受けている。入居者と職員が協働して行っており、地域住民には伝達している。関連事業所間での連携体制を強化すべく「災害対策委員会」を設けている。地震対策として、居室のタンス等の転倒防止策を講じている。有事に入居者を守る事を常に念頭においている。備蓄は、米・水・缶詰など食料品と衛生用品を保管している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室対応。鍵をかけることは可能である。トイレについても鍵をかけることができるようになっている。言葉かけや対応については、カンファレンスや研修を行い、周知している。	事業所の理念・目標の一つに「細やかなケアと入居者様の思いを大切にします」と表明しており、一人ひとりを大切に日々の支援に取り組んでいる。身体拘束や虐待に関する研修や接遇研修も行って、入居者の行動を抑制するような声掛けや言葉遣いに留意している。特に、排泄や入浴時の介助には、プライドを傷つけないように、羞恥心を抱かせないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身での決断。選択できる声かけの促しに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の体制を大切にしている。 朝ごはんが遅い人や、就寝時間についても、生活習慣やご希望に合わせて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせ、化粧水やマニキュアを塗るなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の献立は、法人内の栄養士が作成した献立を基に実施している。 全利用者様に食事前には口腔体操を促し、食事を楽しんでもらえるように支援を行なっている。 買い物は週に2回程度で、天気の良い日以外は、利用者の方と一緒にやっている。調理の手伝い、片付け、配膳はご自分の好きな量を温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま提供できるよう努めている。	食事は、楽しみと共に健康面でも大切であり、3食はバランスのとれた献立になっている。包丁の使える入居者には、職員が見守りながら野菜の皮むき等して貰っている。一人ひとりが出来る事を「生活リハビリテーション」の一環として職員と協働作業を行っている。「私もまだまだできるよ!」と生きる意欲につながっている。食材の買い物やおやつ作りに喜びを感じている様子を察する事ができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の作成・個別の対応についての把握により対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	MC（モーニングケア）・NC（ナイトケア）・歯科往診により対応している。 介護職員に対して歯科衛生士により、入居者の口腔ケアに係る技術的助言及び指導を受ける。 3回の食後に口腔ケアの支援を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン表の作成やトイレの誘導の声かけにより対応している。ケースカンファレンスを通じて、おむつが必要かどうかの取り組みも行っている。 日中は、全利用者様トイレでの排泄が出来るように支援している。	個別の排泄パターンを把握し、適宜、声掛けや誘導でトイレでの排泄に取り組んでいる。気持ちよく過ごせるように、一人ひとりの状況に応じて下着を選んでいる。トレーニングパンツとパットの組み合わせが多いが自立している入居者もあり、現状が維持できるように支援している。入居時に、おむつをしていた入居者が、今では日中トイレでの排泄につながった事例もある。夜間は安全を確保するために居室にポータブルトイレを置いている方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 予防の為に乳製品を提供したり、定期的に散歩を行う事により予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂場の改装工事を行い、入居者が安心して入浴できる環境を提供している。 入浴できない日は、手浴・足浴を実施している。	地下室にあった浴室を、1階に新しく設置した事で、便利になり、綺麗になった事で入居者は大変喜んでいる。入浴時間が楽しみの時間になっている。その日の体調や気分を考慮して入浴を決めている。手浴・足浴をして気持ちよく過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の定めを押し付けず、自身の生活パターンに合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 往診記録・受診記録の作成		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯たたみ、水撒き、水やり、食器拭き等の家事は、ご本人の意向を伺い、分担できる範囲で実施している。買い物、ドライブ、地藏参り、塗り絵、音楽レク、おやつ作り等、利用者の意向に沿って実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物が主となるが、外出については職員が共に出かける。家族へ利用者と共に外出してもらえ(散歩・外食・医療受診など)よう努めている。	事業所を出ると、哲学の道になっており、恵まれた生活環境にある。近在に名所・旧跡があり、観光客も多く楽しい雰囲気がある。四季ごとに風景が変わり飽きる事はない。近在の散歩だけではなく、葵祭や祇園祭などに出かけたり、家族と共に敬老会のお祝い「かに道楽」に出かけ楽しい食事会をしている。四季折々のイベントを大切に、日常生活に変化を付けられるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方については、自身で所持してもらい。難しい方の場合でも買い物時にお財布よりお金を出し清算していただくように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、毎年年賀状はご自身で書いてくださるか方の援助を行い家族様等に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めている。 居間については、カレンダー・時計及び季節感のあるものを設置している。 リビングは植物を設置して生活感を演出している。 今年度浴室改修工事を行った。	今年度は、浴室が新しくなったことや、廊下やリビングダイニングの壁紙等の内装に手を加え、電気もLEDに替えて温かさを感じる明かりになった。季節の花を玄関や随所に置き、やさしい雰囲気を出している。リビングダイニングは広くはないが、寄り添って暮らしていくには、丁度良い空間になっている。キッチンから煮炊きの匂いが漂い、職員の動きを見ながら穏やかに過ごせる居場所になっている。不快になるような音や臭いも感じられない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーの開放及び居室により自身の生活の確保に努めている。 ロビーに本・TVを配置してより寛げるよう工夫している。 季節感のあるものを設置。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力ご利用者及びご家族に委ねるよう努めている。	馴染みの家具類を持参して、使い勝手の良いように配置している。折り紙教室での作品を飾っている部屋もある。仏壇を置きお参りしている方もある。入居者の思い出のあるギターは、今では職員が借りて時々みんなに披露して喜ばれている。それぞれが、「我が部屋」にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている。階段昇降機の設置。手すりの追加にて利用者様のニーズに対応している。介護ロボット導入にて安全に一人で移動できるように支援している。お風呂の改築を行い地下より1階に設置する。		